

隅切型コンクリート張りブロック

隅切型張ブロックの特徴

- ① ブロック積の四つ目を避けるため隅切部を鉄線で緊結して生コンクリートを充填するので最も合理的な組積方法であります。
- ② ブロックの合端が凸凹になって居りますので組積の場合合端が完全に噛合います。且鉄線緊結の相互作用によってブロックの滑動移動に対して有効に作用します。
- ③ 谷積の場合、ブロックの四ヶ所の隅を切っているので曲線部の施行が簡単です。

据付歩掛

(10m²当り)

種 別	呼び名		500× 500
世 話 役	人		0.1
ブ ロ ッ ク 工	人		0.2
特 殊 作 業 員	人		0.1
普 通 作 業 員	人		0.4
ホイールクレーン (油圧式25t吊り)	日		0.2
諸 経 費	%		—

(H20年度 国土交通省土木工事積算基準引用)

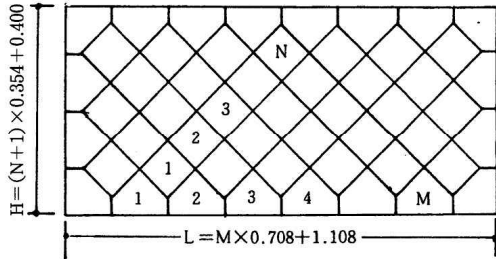
2-4 積みブロック、張りブロック

隅切型ブロック積工の所要数量計算式

〈谷積の場合〉

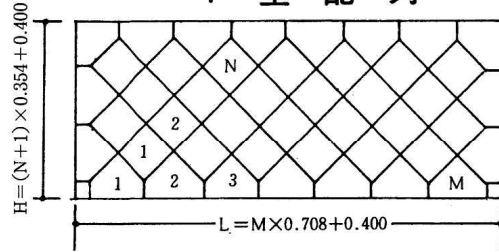
Nが奇数の場合

E型配列

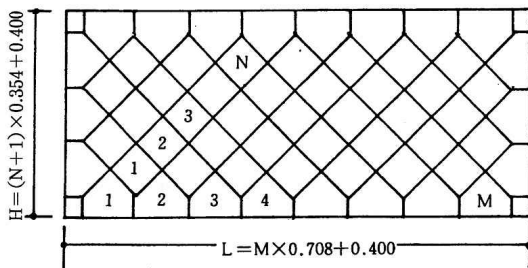


Nが偶数の場合

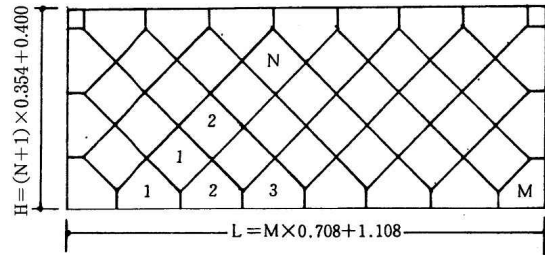
I型配列



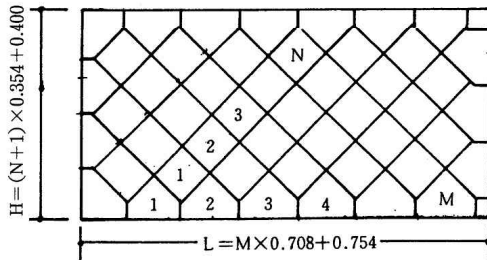
F型配列



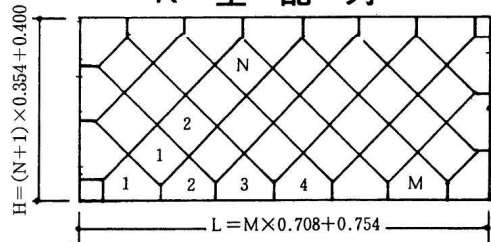
J型配列



G型配列



K型配列



ブロック数量計算式				
	A	B	C	D
E	$MN - \frac{1}{2} \times (N - 1)$	$2M + N + 1$	4	0
F	$MN - \frac{1}{2} \times (N - 1)$	$2M + N + 1$	0	4
G	MN	$2M + N$	2	2

計算例

E型配列 M=25 N=13の場合

$$A = MN - \frac{1}{2} \times (N - 1) = 25 \times 13 - \frac{1}{2} \times (13 - 1) = 332$$

$$B = 2M + N - 1 = 2 \times 25 + 13 - 1 = 62$$

$$C = 4 = 4 = 2$$

$$D = 0 = 0 = 2$$

$$\text{計} \qquad \qquad \qquad 398$$

ブロック数量計算式				
	A	B	C	D
I	$MN - \frac{1}{2} \times N$	$2M + N - 1$	2	2
J	$MN + \frac{1}{2} \times N$	$2M + N$	2	2
K	MN	$2M + N$	2	2

計算例

I型配列 M=26 N=10の場合

$$A = MN - \frac{1}{2} \times N = 26 \times 10 - \frac{1}{2} \times 10 = 255$$

$$B = 2M + N - 1 = 2 \times 26 + 10 - 1 = 61$$

$$C = 2 = 2 = 2$$

$$D = 2 = + = 2$$

$$\text{計} \qquad \qquad \qquad 320$$

2-4 積みブロック、張りブロック



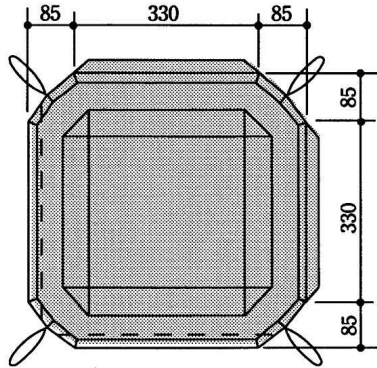
隅切型

500型

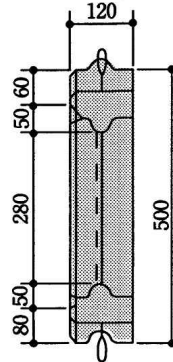
正面図

側面図

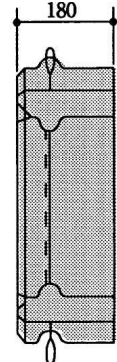
A型



控=12cm



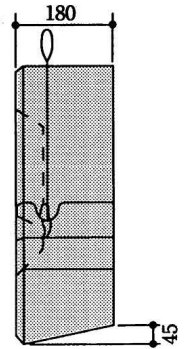
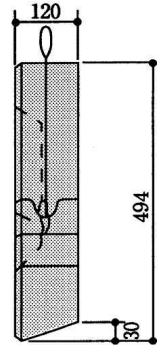
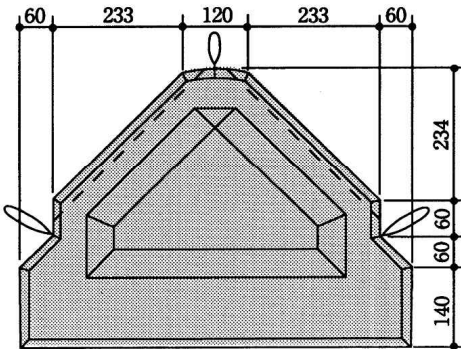
控=18cm



体積-0.0229m³
質量-52kg

体積-0.0384m³
質量-88kg

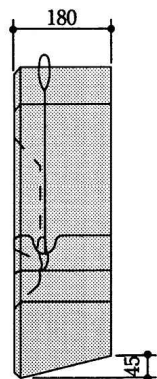
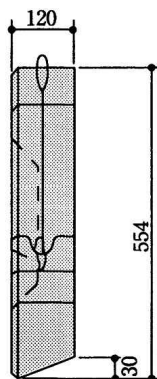
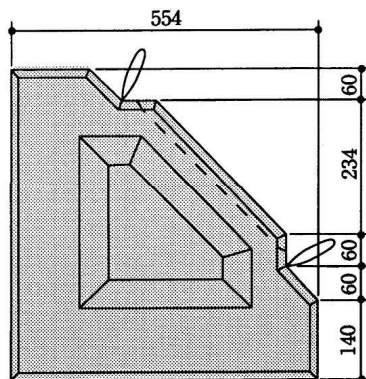
B型



体積-0.0256m³
質量-59kg

体積-0.0389m³
質量-89kg

C型



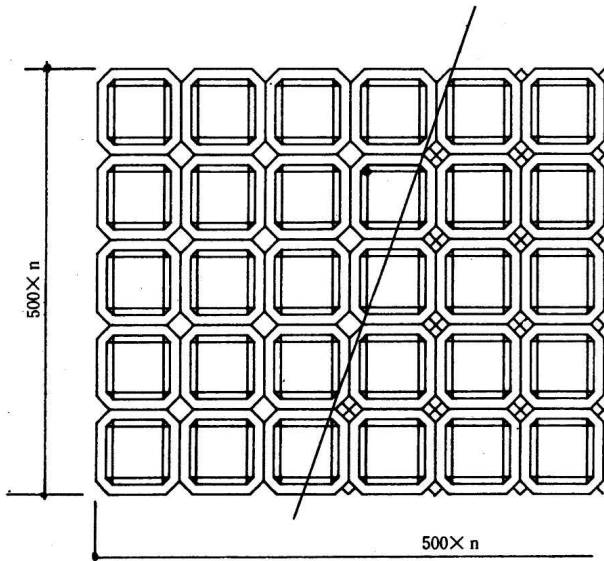
体積-0.0237m³
質量-55kg

体積-0.0355m³
質量-81kg

2-4 積みブロック、張りブロック

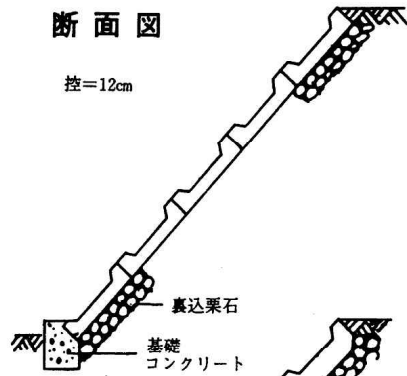
施工図

500型 布積

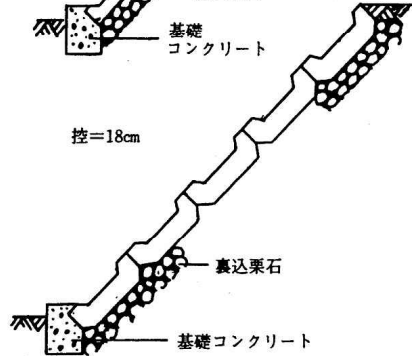


断面図

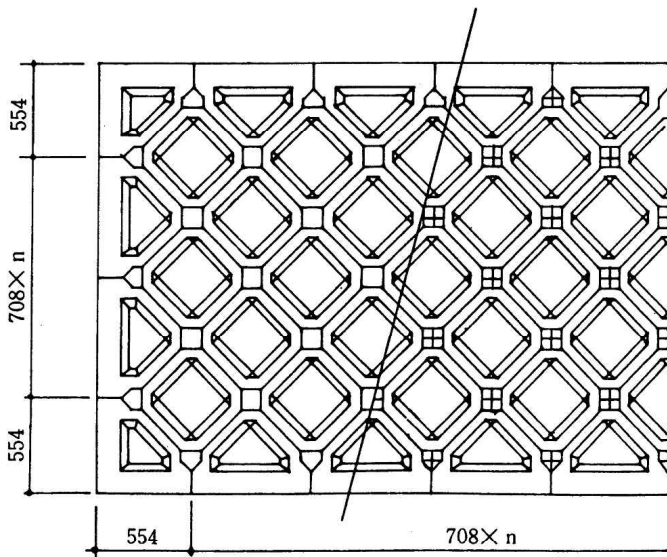
控=12cm



控=18cm



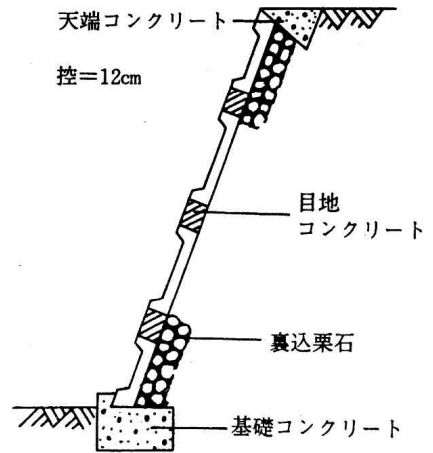
500型 谷積



断面図

天端コンクリート

控=12cm



天端コンクリート

控=18cm

